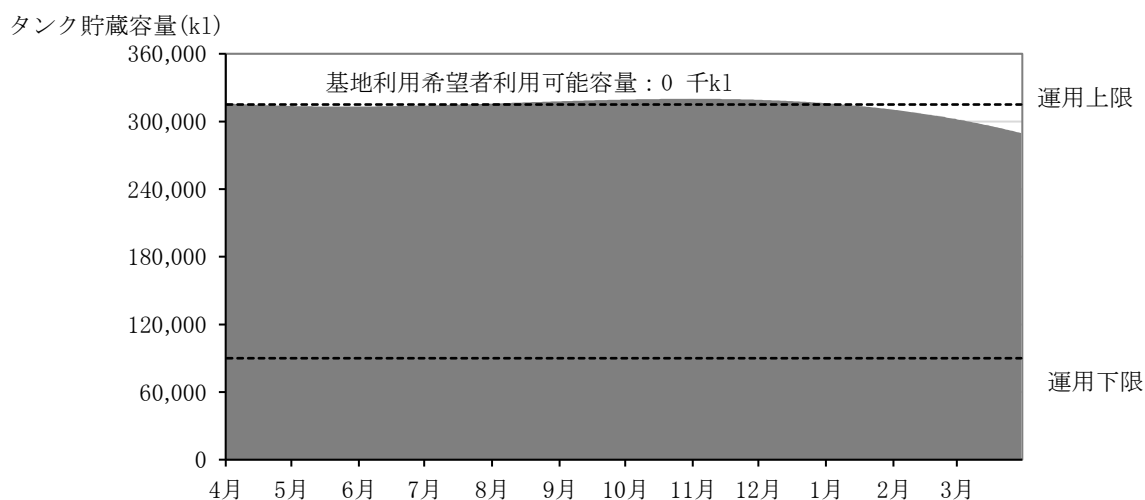


液化ガス貯蔵設備の容量等の公表

以下は、ガス事業法第90条第1項及び同法施行規則第142条に基づき、公表するものです。

1. 液化ガスの貯蔵設備における液化ガスの貯蔵の余力の見通し



直江津LNG基地では、以下の受入れとなる見込みです。

- ルームレント方式の場合、 0千kl (容量ベース)
- ルームシェア方式の場合、120千kl (受入量ベース)

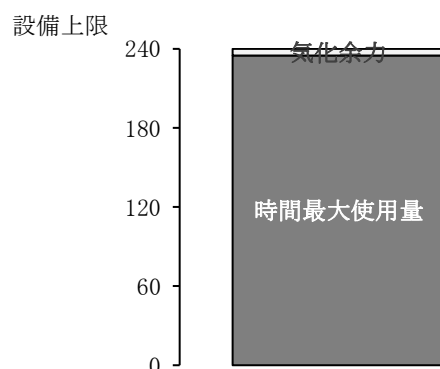
なお、上記は以下に示す条件での場合であり、それ以外の条件においても、ご利用が可能な場合がございます。詳細につきましては、お問い合わせください。

利用可能容量・受入量の算定条件

- 基地利用希望者の利用可能容量は、LNGの受入状況、ガス需要動向、予定外設備工事等により変動します。
- ルームシェア方式における受入量は、入船1回あたり120千kl (発熱量44.2MJ/Nm³) を、年度終了時にLNG在庫が零となるように、6か月間、一定の割合で払い出した場合の結果となります。また、高在庫が見込まれる期間は、当社からLNG貸出を行い、高在庫期間後にLNGを受入れ返却した場合の結果となります。

2. ガス発生設備におけるガスの製造の余力の見通し

LNG気化器：80t/h×3基（オープンラック式） 予備機：SMV(サブマージド式)



上図は、当社で予定しているピーク日における気化器の時間最大使用量のイメージを示したものです。気化余力は5t/h（製造計画策定値を基に算出）となりますが、LNGの供給変動、ガスの需要動向、定期検査、予定外設備工事等により変動します。

3. 利用することができる船舶の種類及び船型並びに液化ガスの種類及び品質

(1) 利用することができる船舶の種類及び船型（最大要目）

船型	タンク容量
モス	182,000m ³
モス（連続タンクカバー）	180,000m ³
メンブレン	217,300m ³

(2) 利用可能と見込まれる液化ガスの種類及び品質

組成	メタン	83モル%以上
	ブタン以上	2.5モル%以下
	ペンタン以上	0.5モル%以下
	窒素	2.0モル%以下
発熱量	42.1～44.4MJ/Nm ³	
その他	全硫黄	32.1mg/Nm ³ 以下
	硫化水素	7mg/Nm ³ 以下

注) タンク在層の性状により受入可能なLNGの性状は異なるため、上記数値は目安とします。

4. 配船計画の策定期間の見通し

各年度の配船計画の策定スケジュールは概ね以下のとおりです。

- 前年度7月頃：LNG売主との間で配船計画に関する協議を開始
- 前年度7月～3月頃：LNG売主との間で年間配船計画を調整・策定

注) 上記はおおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールはLNG売買契約の規定により異なります。

以上